丹鶴叢書

117
105
2

東京圖書館
和書門
叢書類
別ね函
二架
二號
一〇五冊

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

丹鶴叢書　戊申帙

故樹原芳楚納本

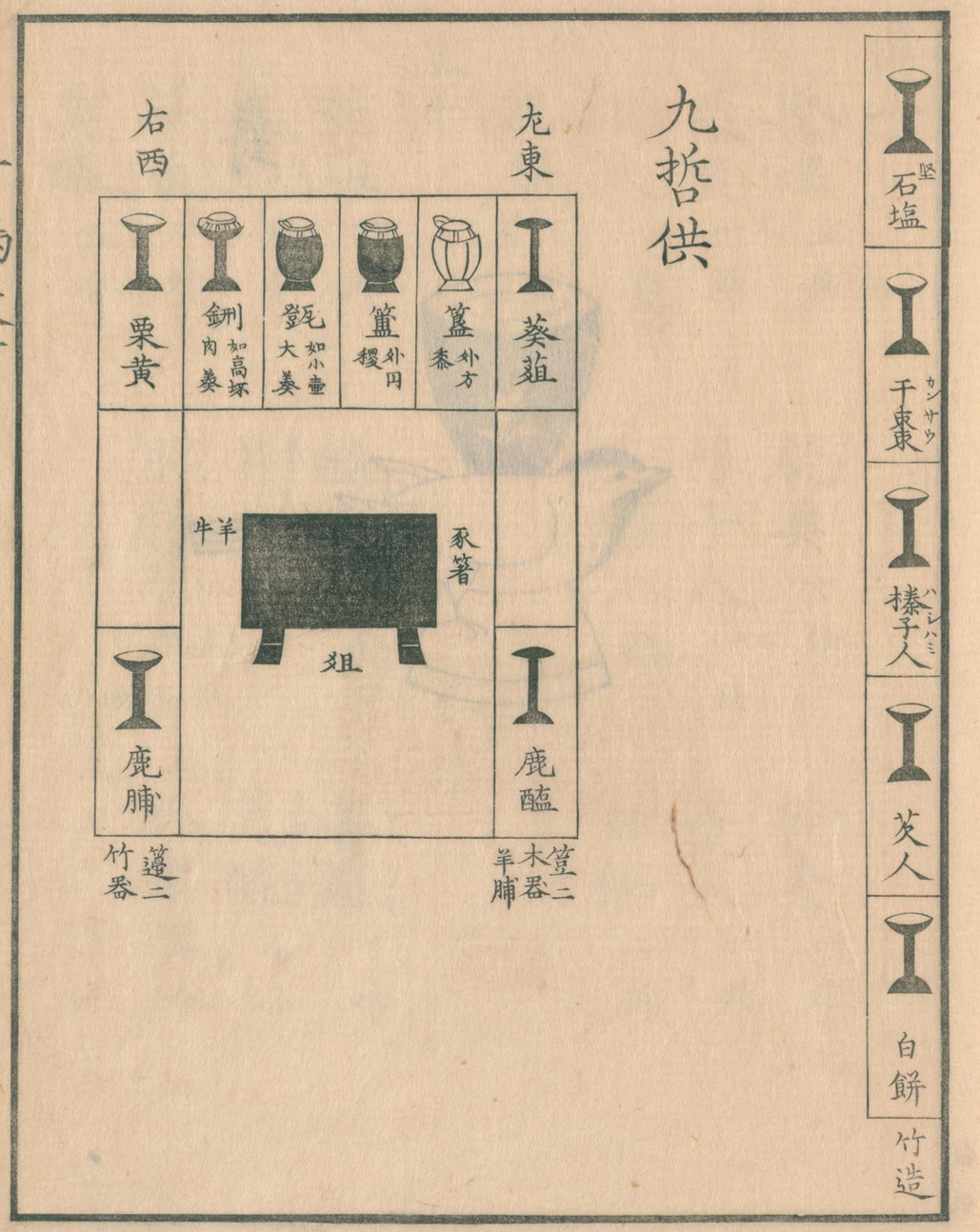
從五位下行土佐守源朝臣忠央輯刻

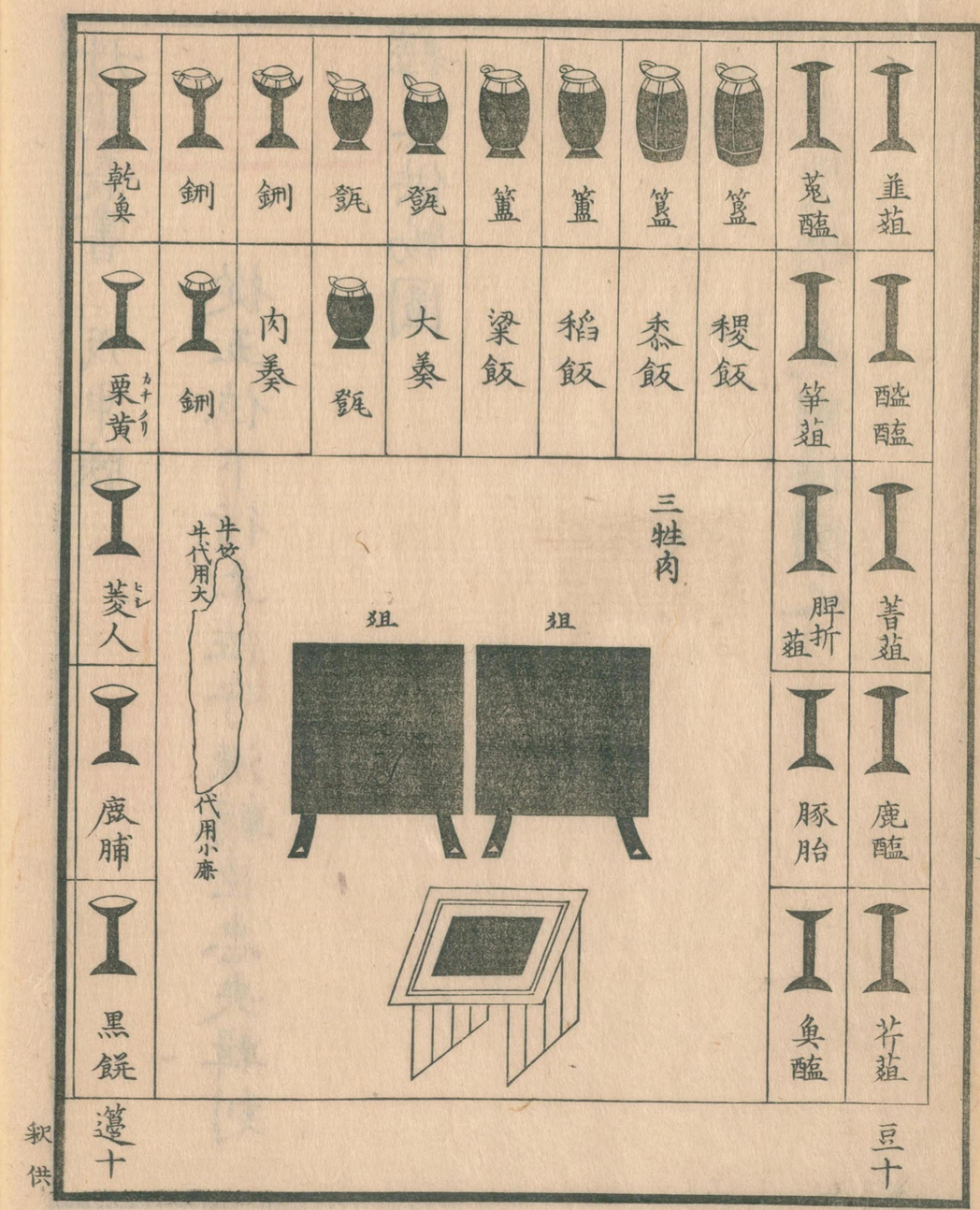
釋奠供物圖

先聖供　先師供同之

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

籩十

堅塩　五果
栗黄　一外
芡人　一外
黒餅　二外　用黒黍

乾魚　一外
榛子人　一外
鹿脯　八兩

乾棗　一外
菱人　一外
白餅　二外

豆十

韮菹　一外
鹿醢（シヽヒシヲ）　五合
笋菹（タカンナノニラキ）　一外
魚醢　五合

醓醢（ヒシヲ）　五合
芹菹（セリノニラキ）　一外
脾析菹（ヨコシノニラキ）　五合　用康百葉

菁菹（アヲナノニラキ）　一外
莵醢（ウサギノヒシヲ）　五合
豚胎　五合

爵

簋二
稷飯（キビノイヒ）用米六合　黍飯用米七合
簠二
稻飯用米七合　粱飯用米七合
甑三
大羹　鉶三　肉羹　俎三　三牲肉
已上先聖　先師同之
籩二
栗黃一外　羊脯一斤八両

釈供

豆二
葵菹一外　鹿脯一斤八両
簋一
稷飯六合
簠一
黍飯七合
甑一
大羹　鉶一　肉羹　俎一　牲肉
已上九哲各如此

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

惣數

堅塩二坏十果　栗黄十一坏一斗一外　芡人二坏二外　黒餅二坏四外用黒黍　韮葅二坏二外　脾折葅二坏一外　葵葅九坏九外　稷飯十一坏六外六合　粱飯二坏一外四合

乾魚二坏二外　榛子人二坏二外　鹿脯十一坏十六斤八両　羊(ヒツジ)脯九坏十三斤八両　兎醢二坏一外　豚胎二坏一外　黍飯十一坏七外七合　醓醢二坏二外

乾棗二坏二外　菱人二坏二外　白餅二坏四外　笋葅二坏二外　魚醢二坏一外　稲飯二坏一外四合　菁葅二坏一外

釈供

鹿醢二坏一外　芹葅二坏二外

牲及大羹肉羹數不見仍不注

名香二両

別貢物

東鮑十斤　薄鮑五斤　隠岐鮑十八斤

串貫羽割鮑六斤　阿波鮑六斤

押鮎六斤　熬海鼠六斤　脯六斤

筑紫鮑二斤　蔭鮑四斤　烏賊(イカ)四斤

大干鮎十八斤　堅魚十六斤

煮堅魚八斤　魚楚割(ソハヤリ)卌八斤

賭六十斤　海藻卅六斤　鮭廿隻
紫菜六斤　木綿二斤八両
清酒三斗六外

弘安十年卯月五日写之自冷泉宰相殿被下之
但供物已下多被略之了
孔子供物也
仙洞夏中之間可調進
被仰下之仰含番衆迫

釈供

大外記良季真人注進
之云〻

右弘安年中釋奠供物一巻御厨子□尤馬権助
紀宗長朝臣自筆也及四百餘年而破損畢故今考
舊記粗補之天和三年癸亥二月朔日書之
御厨子所倫前守紀宗恒
宗

斯一巻宗長朝臣真蹟傳来之子細見上而宗恒朝臣孫
同預紀宗直以別志之深切借与之芳情之至也仍
手自写之雖然老眼特於病床難堪執筆之间少字
之分令實全朝臣助筆託深秘箱底莫令外見云爾
享保第十四己酉晩夏上浣散木亜槐（花押）

右釈奠供物畣依無類本不能挍合

丹鶴叢書　戊申帙

搦弓藤割次第

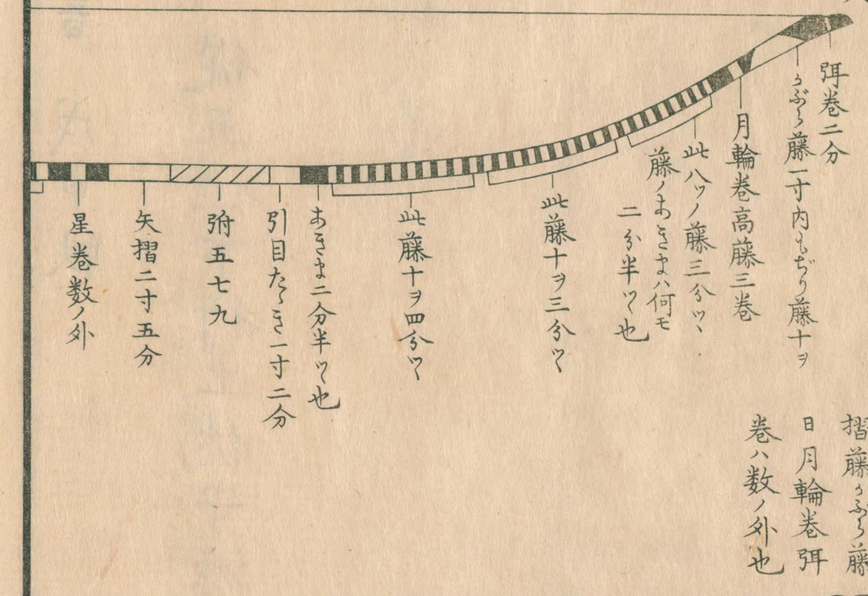
従五位下行土佐守源朝臣忠央輯刻

重藤

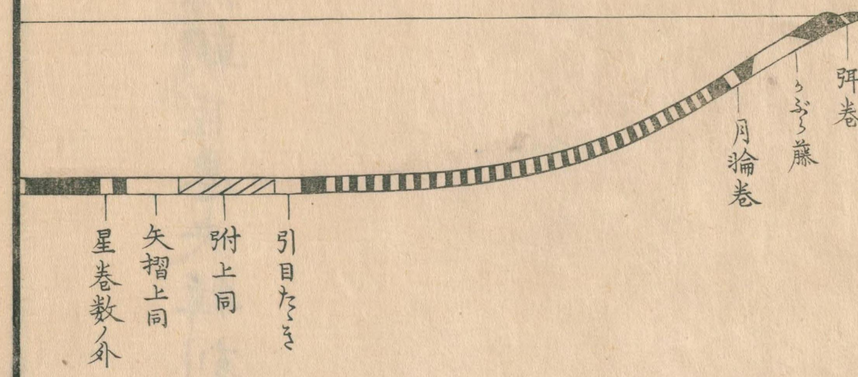
本重藤

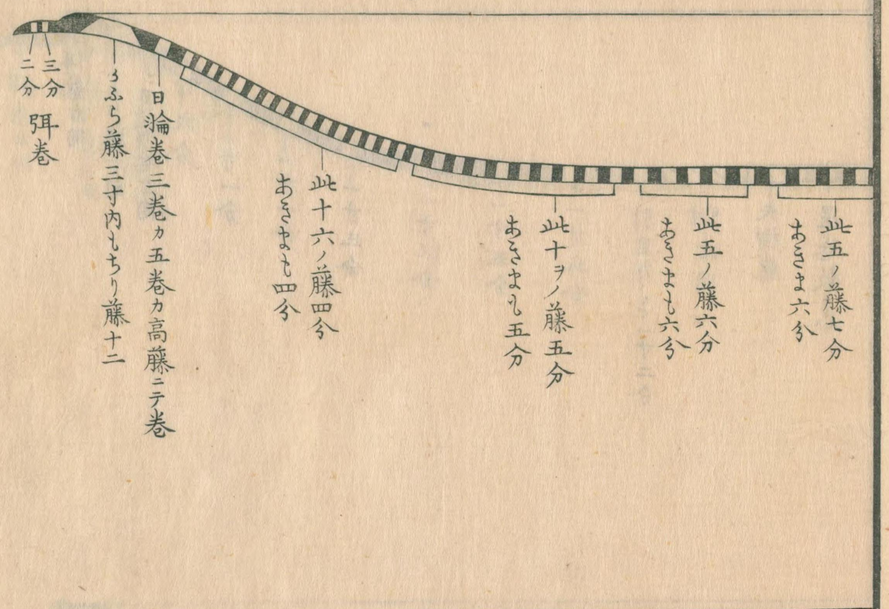
国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

本の藤廿八末ノ
藤卅六合八、
六十四也但矢
摺藤引目たゝ
き藤うぶゝ藤
弭巻日月藤
ハ右六十四ノ外
也

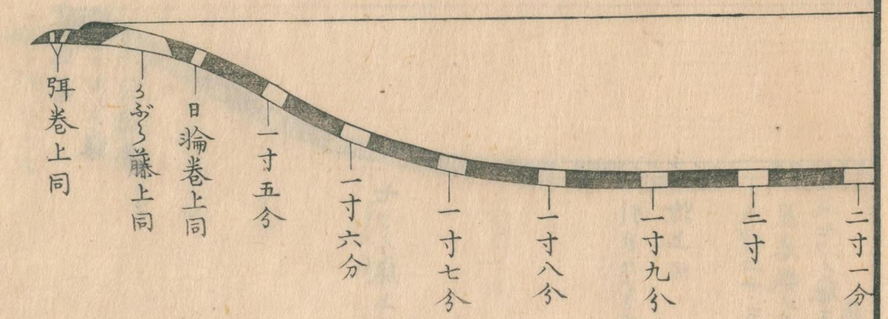


本ノ藤割上ニ同
末ノ藤七但矢
摺藤うぶゝ藤
日月輪巻弭
巻ハ数ノ外也



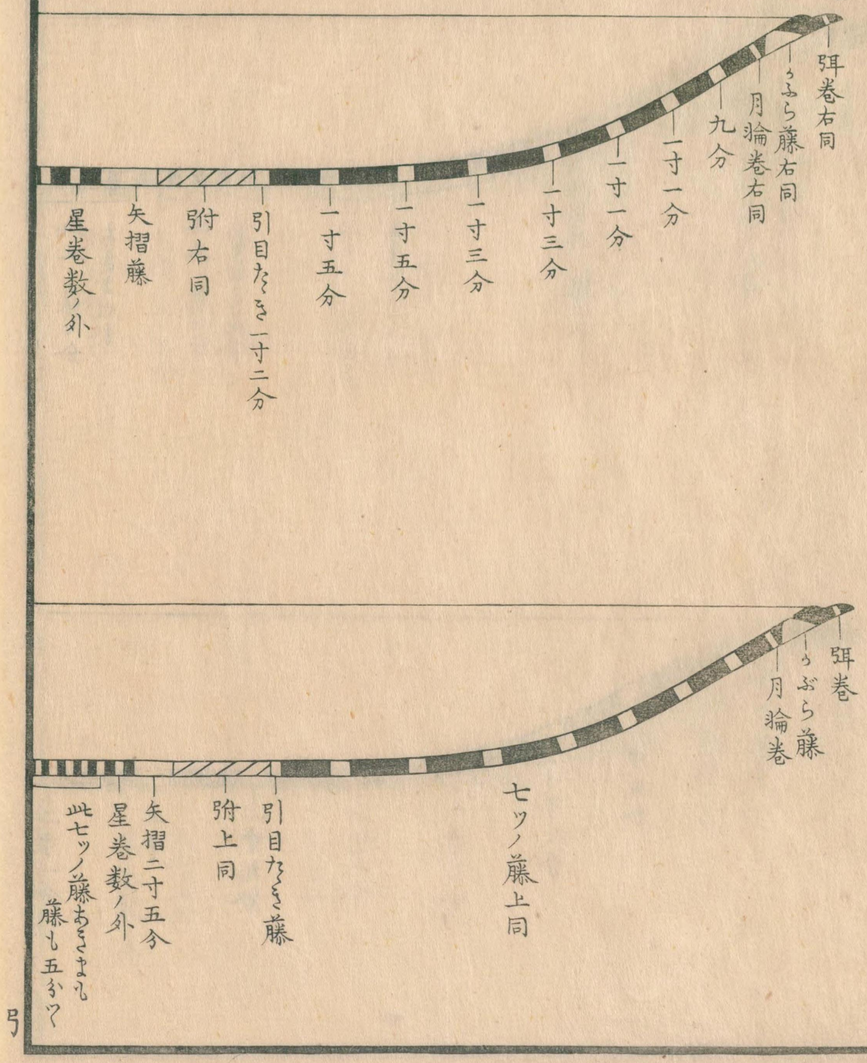


右七尺三寸ハこ積也七尺五寸ハこノ時ハ増ヲ加
自余是ニ准ヘ〳〵弓ノ長短次第ニ藤割ノ巻別可有之

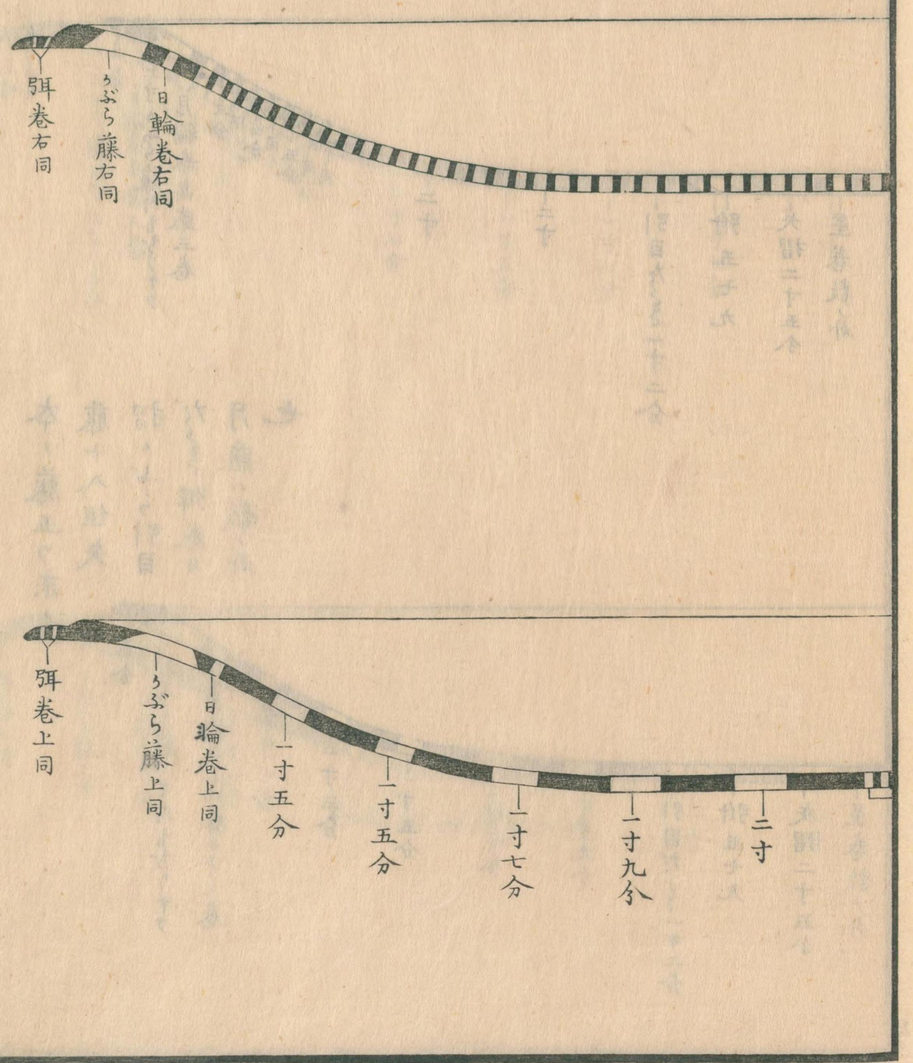


国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

末重藤



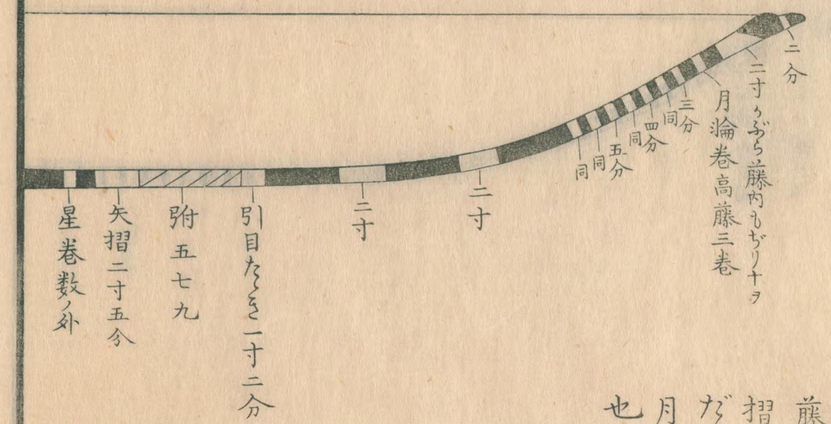
矢摺重藤



国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

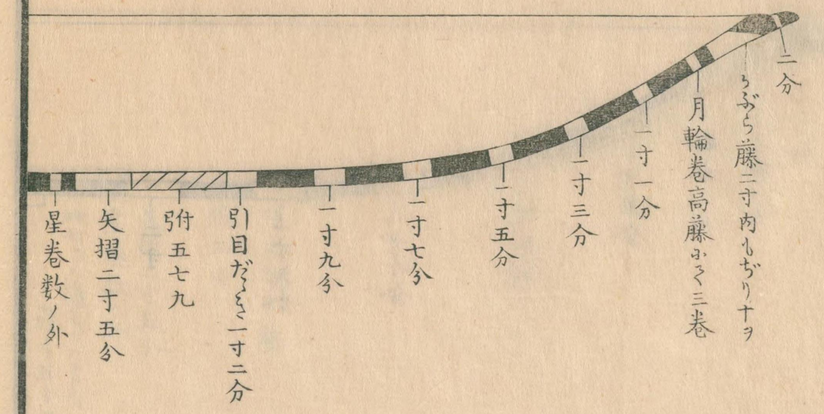
かぶら重藤

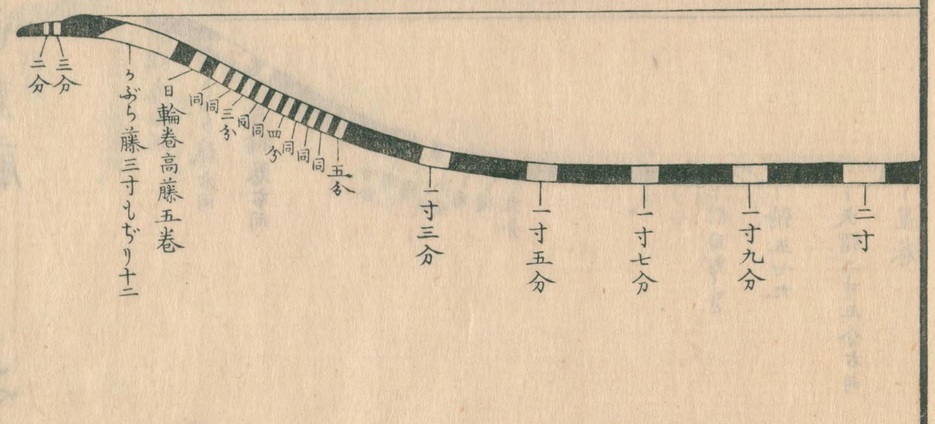
本ノ藤九ツ
末ノ藤十五
但矢摺うぶ
ら引目だゝき
弭巻日月ノ
藤ハ数ノ外

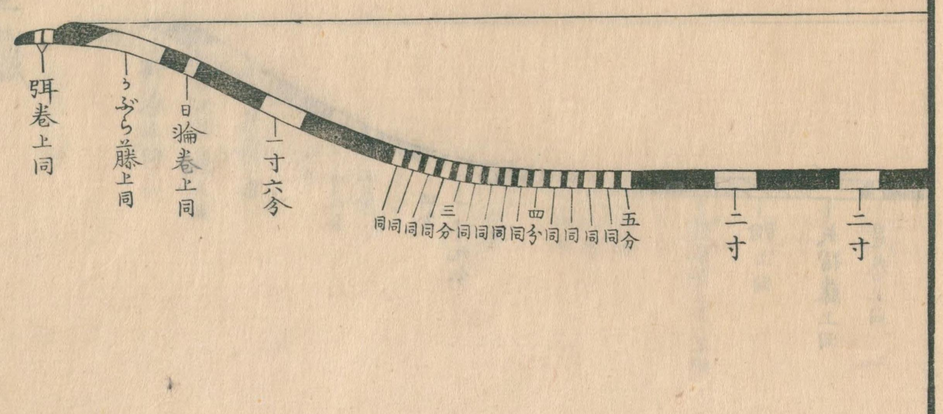


中重藤

本ノ藤五ツ末ノ
藤十八但矢
摺うぶら引目
だゝき弭巻日
月藤ハ数ノ外
也



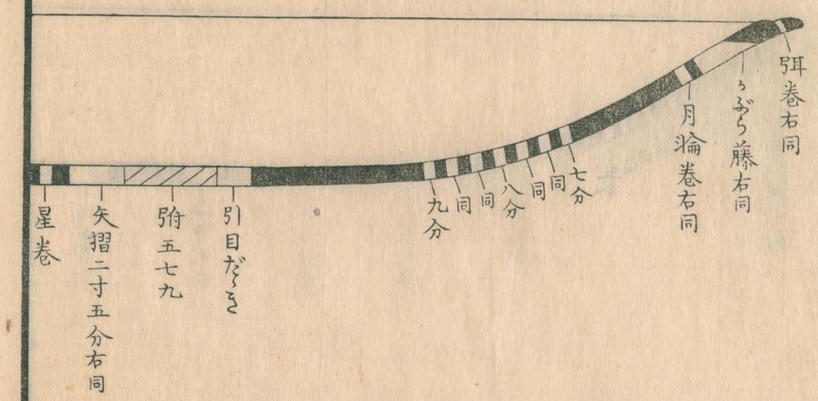




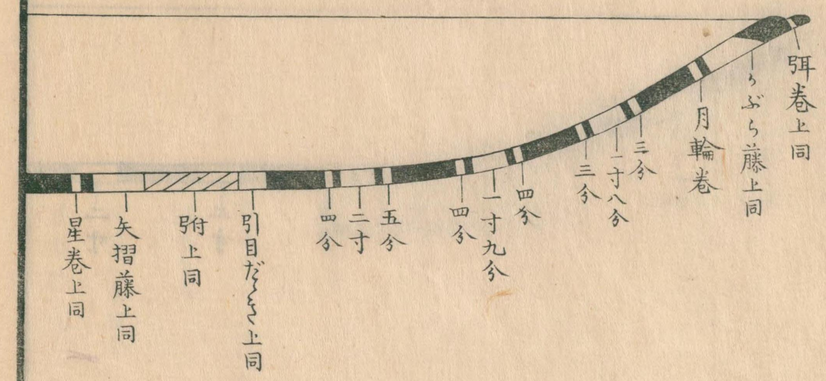
国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

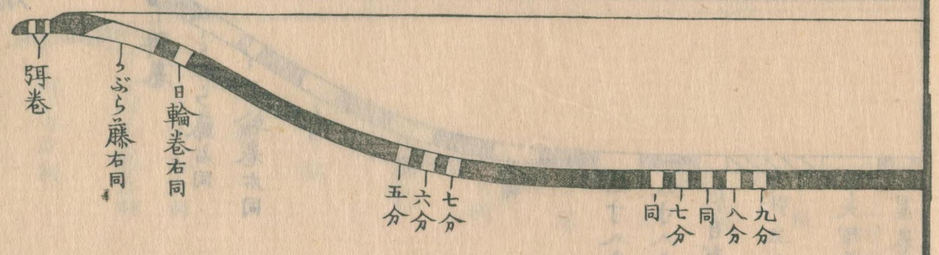
炮きよせ重藤

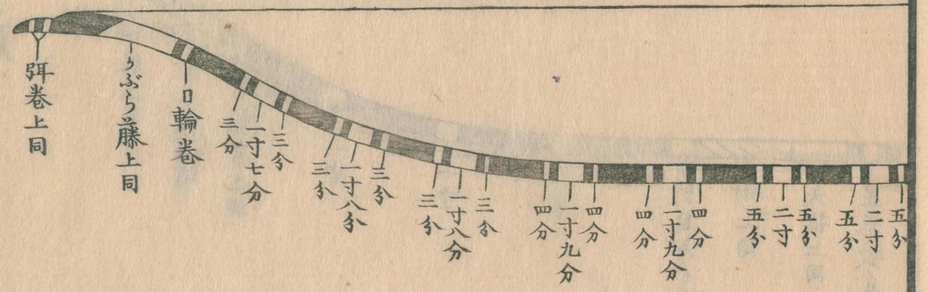
七五三と藤とつふ也



ふくひ重藤

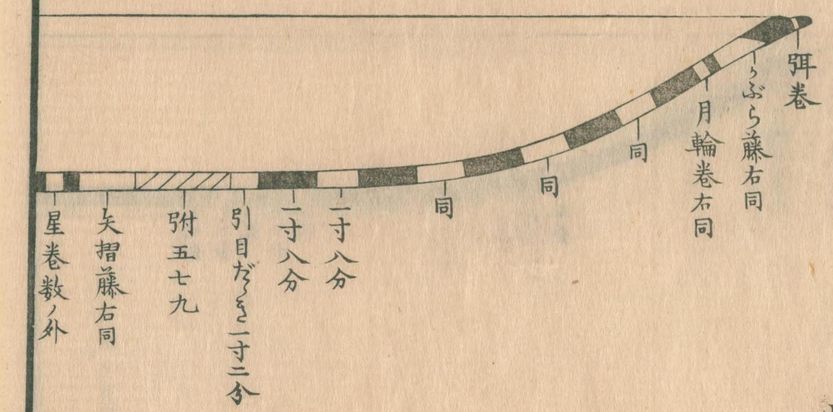






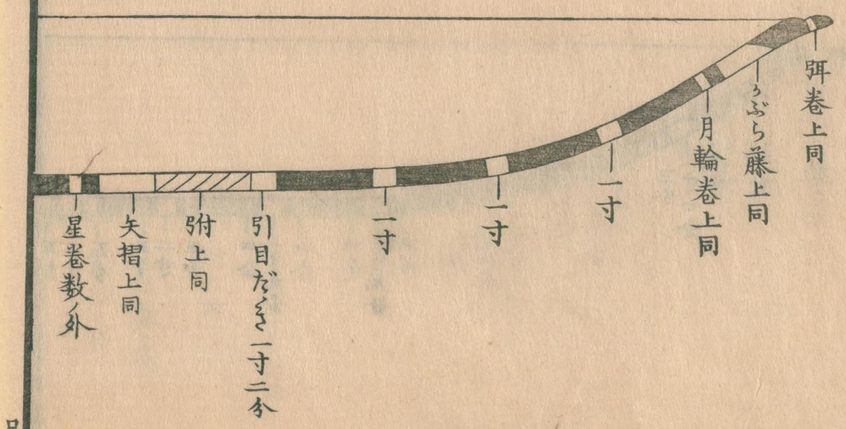
国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

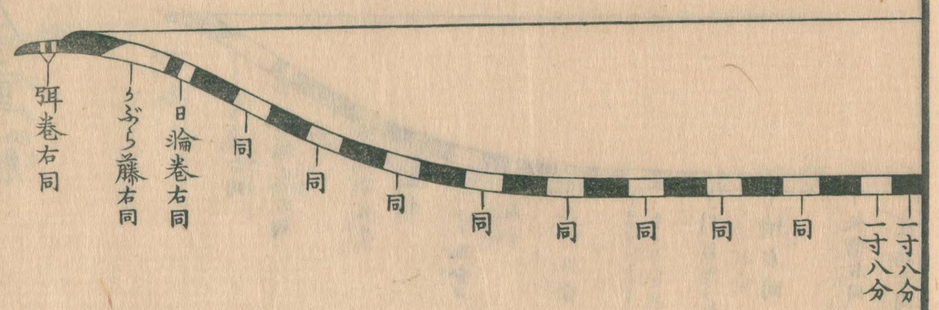
段重藤

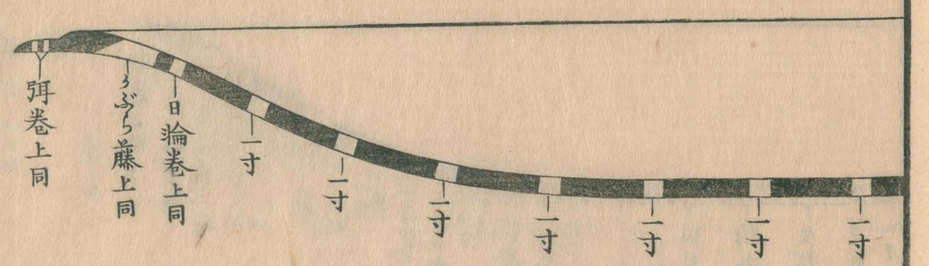


ふしため重藤

節ことゝ巻也



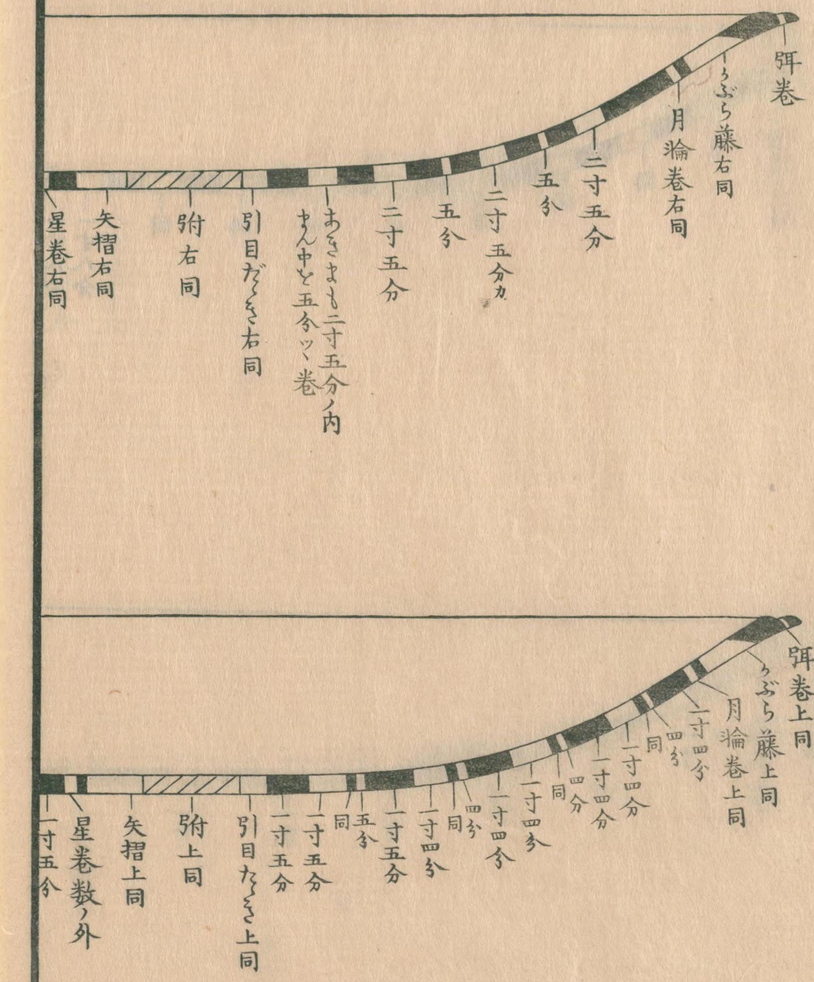


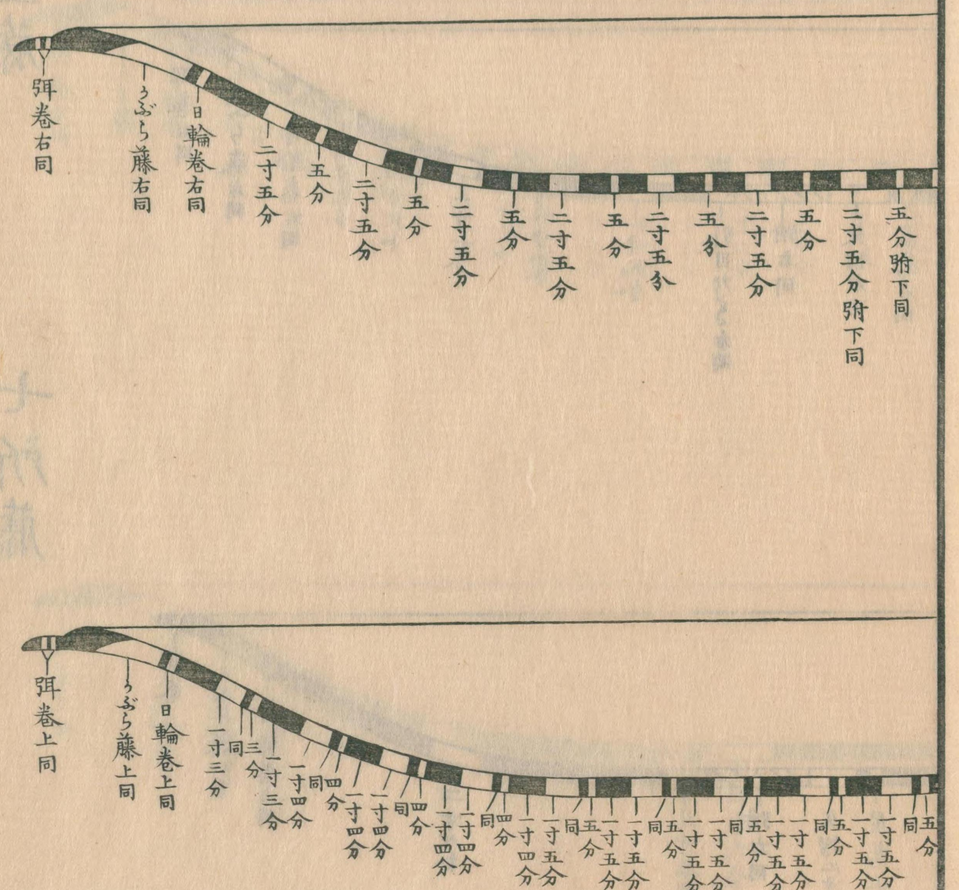


国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

せんだん重藤

引両重藤

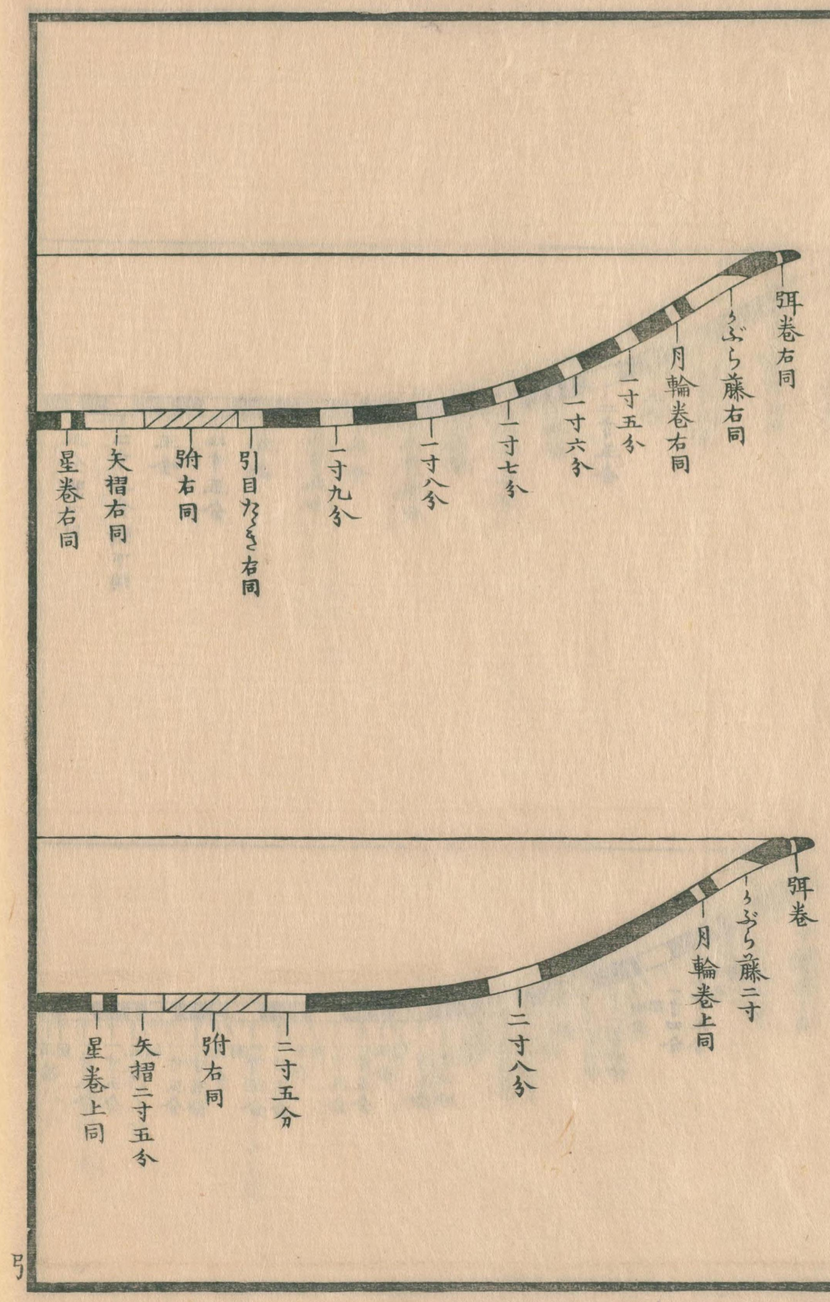


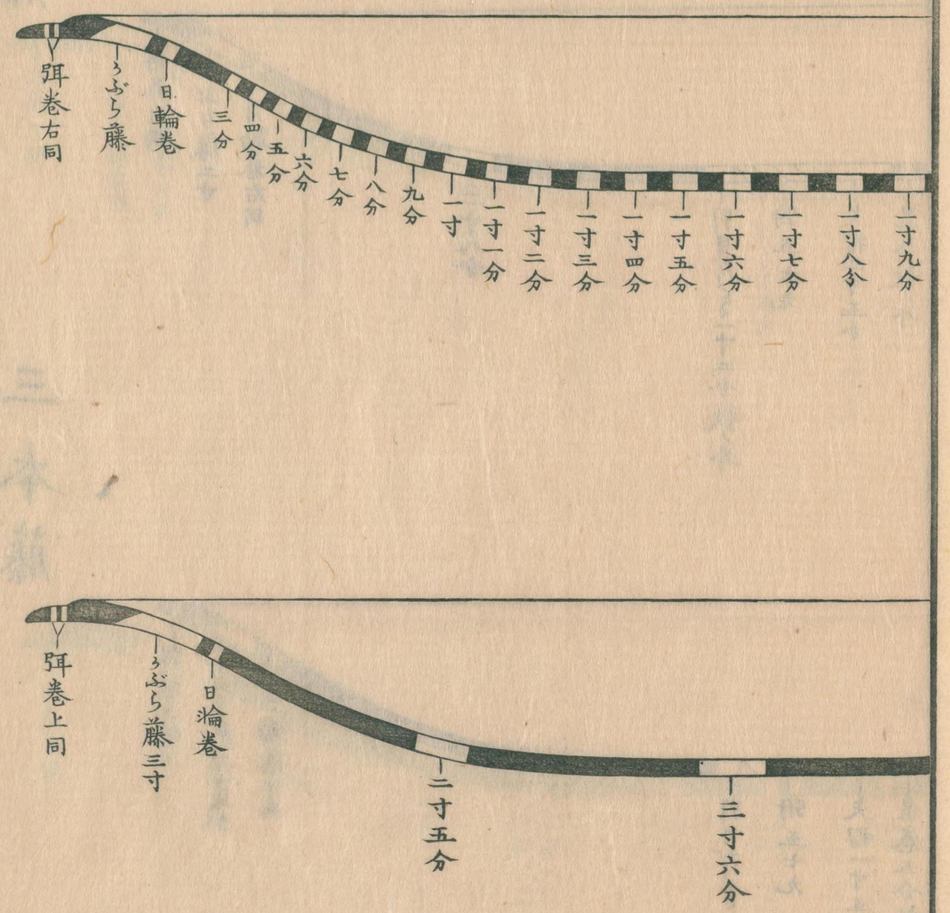


国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

たい重藤

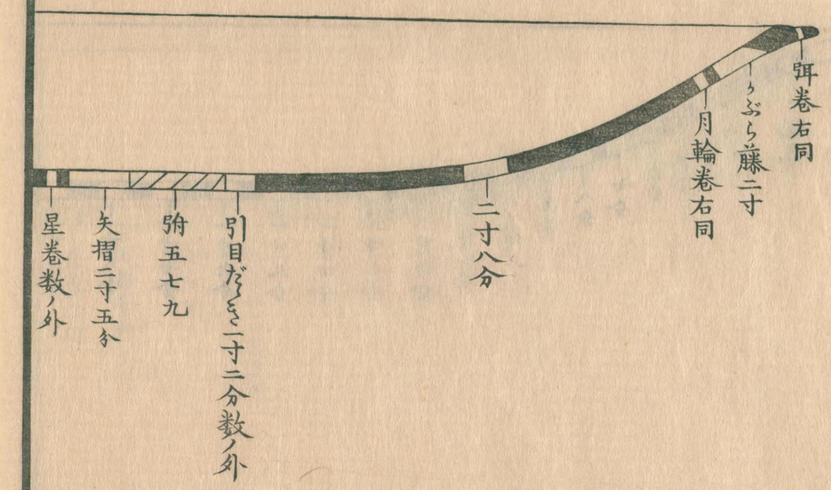
七所藤



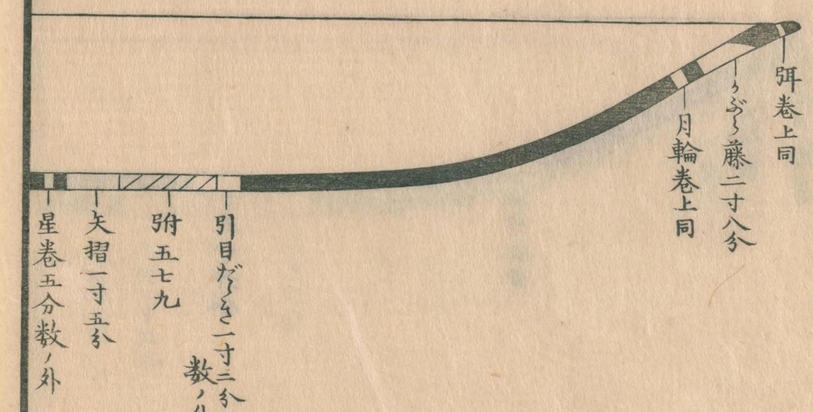


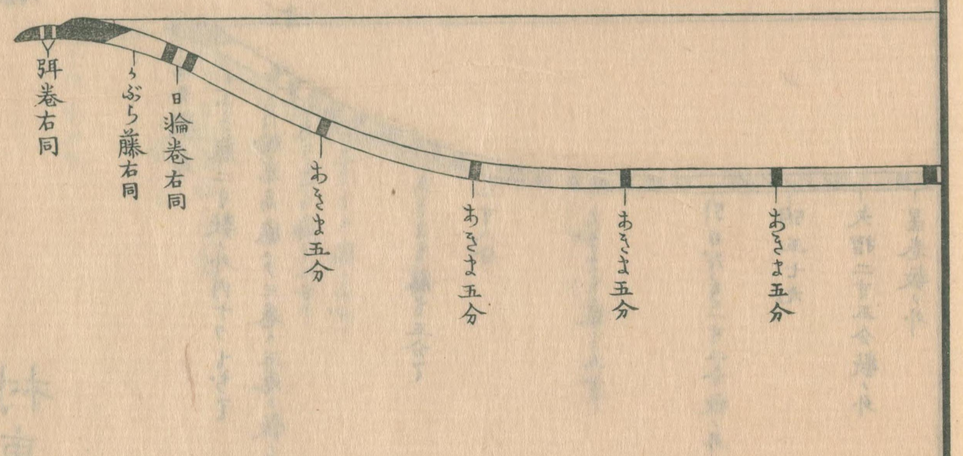
国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

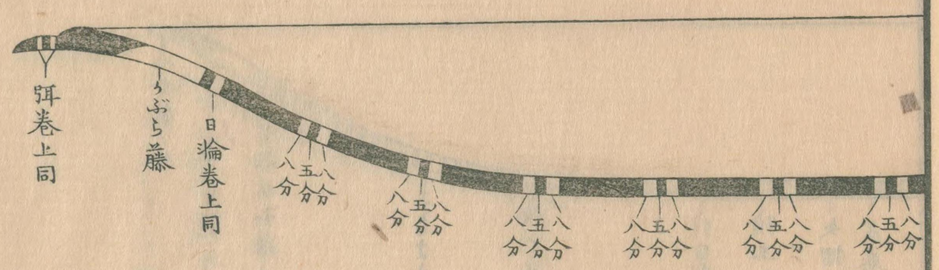
五所藤



三本藤

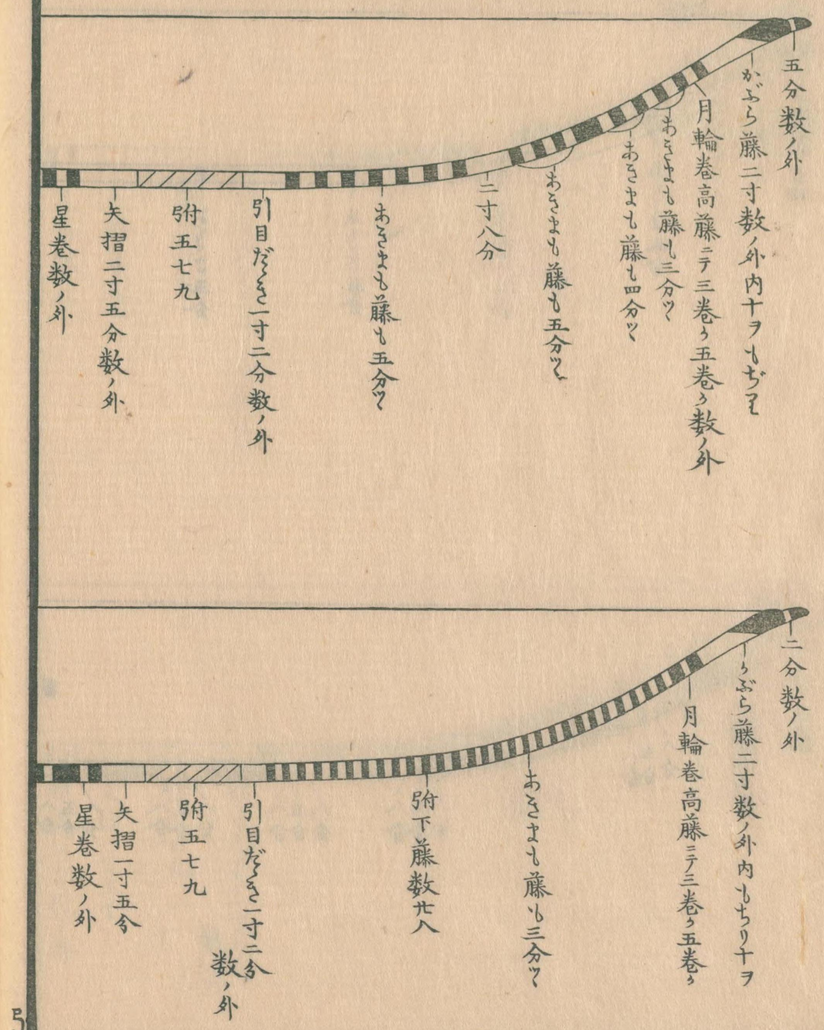




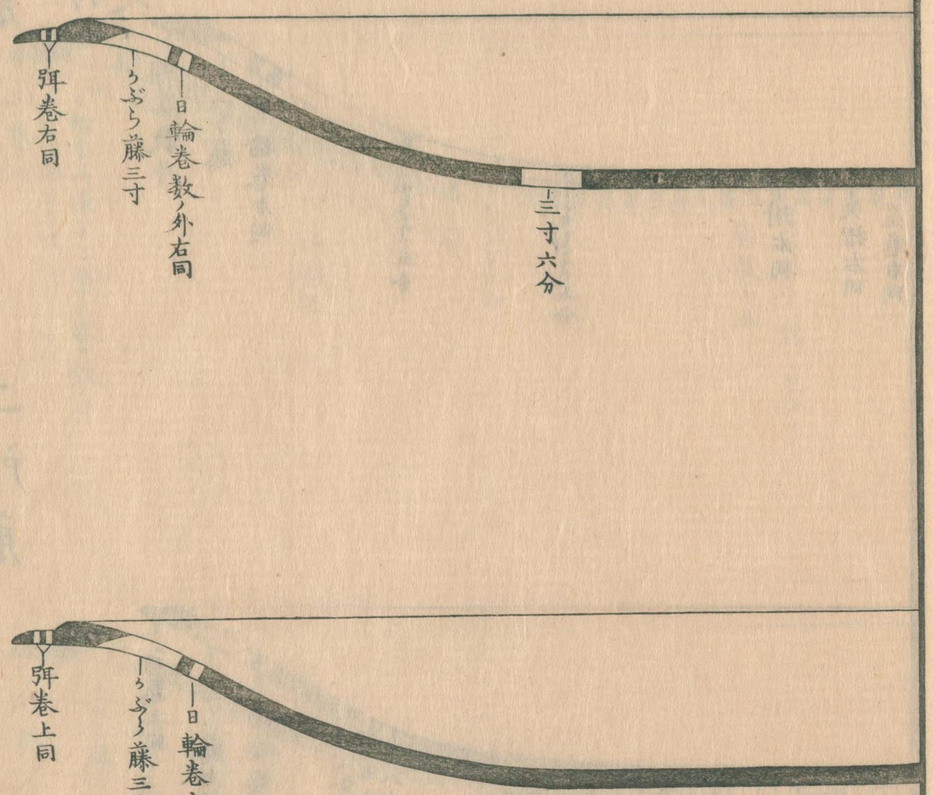


国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

村重藤



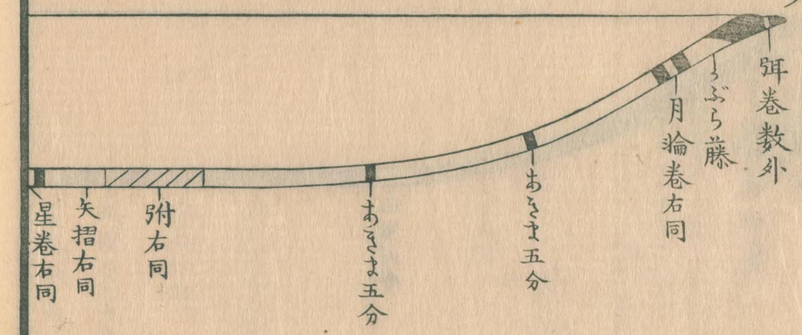
村重藤



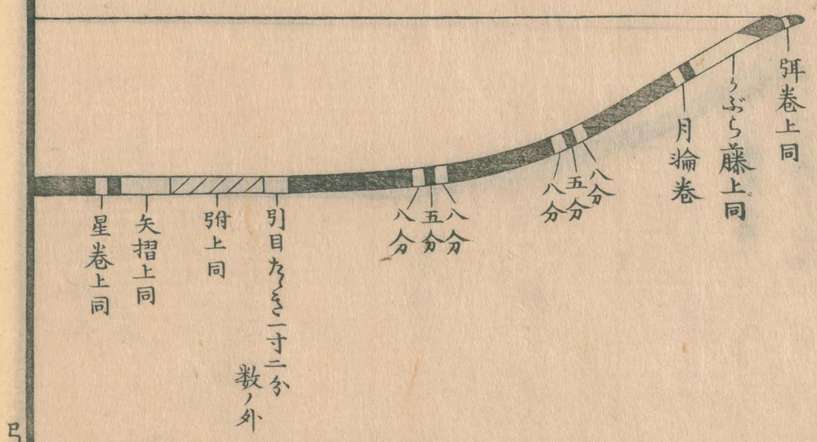
国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

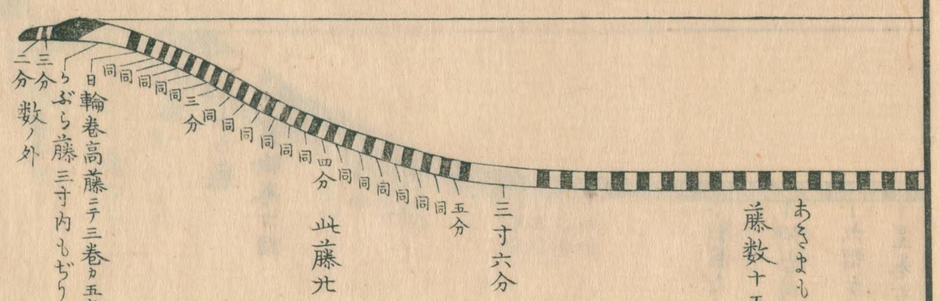
白重藤

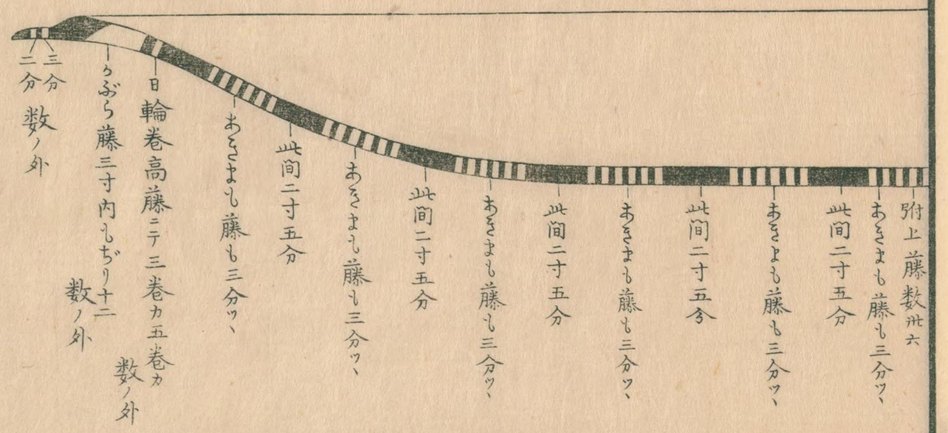
主将ノ可持弓也故平人ぢんーやく勿論也



二所藤

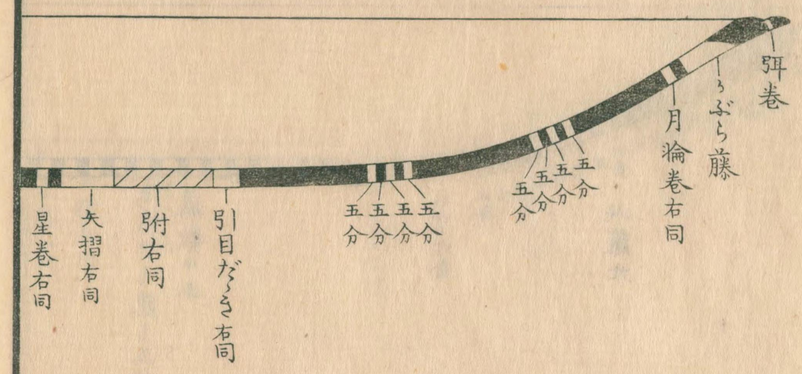


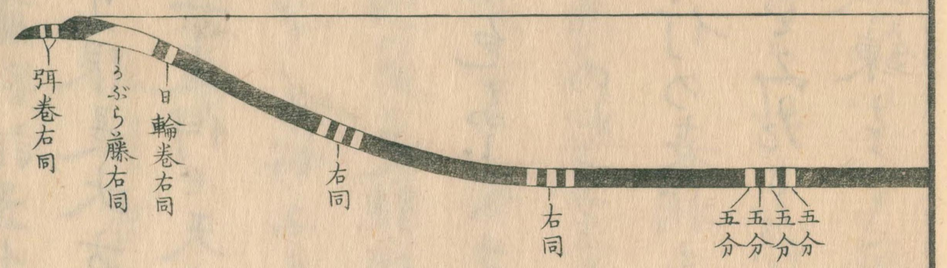




国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

三所藤





国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

右拵弓藤割記置分合二拾壹張也但二拾一張乃
拵に不可限是大方古人ノ用来ル分也陰陽五行
十干十二支何モ天地ノ表相にそむかずハいかやうに
も其主〳〵の好にもよるべき也むつきやう肝要と
すべき所ハ弓之強弱長短の法まおせさせず藤を
法かひ糸色などにする事弓を損せさせぬため也
又ハ藤ハ弓のかざり也其かんようにあらばといへども
陰陽五行の表相をそむくは非儀也といへんか能
其大本をみださば其用を節ましく万般法まむ
らのに鍛錬をすべき事専要也

弓こしらへ以下ノ根本重藤の書にくはしく記置
之也此書を法まむらのにあきらめて細工をすべき
もの也

右弓拵藤割之次第為我鍛錬之且為愚昧之子孫
記置之後世に傳之者也相かまへて雖為親子兄
弟射術之道不堪之輩者不可相續之尤妄不可他
見之者也

弘治貳年

五月吉旦

信豊御判

117
105
2

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用